

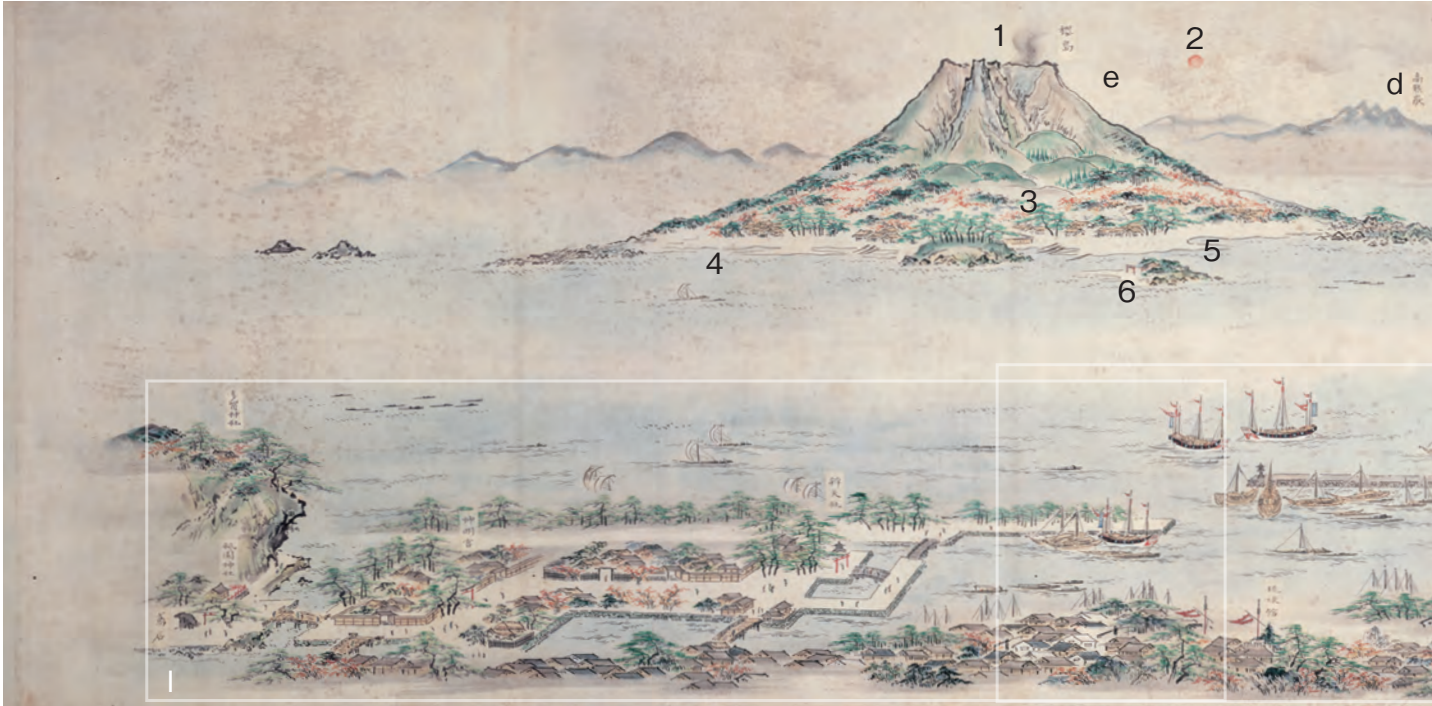
II

鹿児島城下

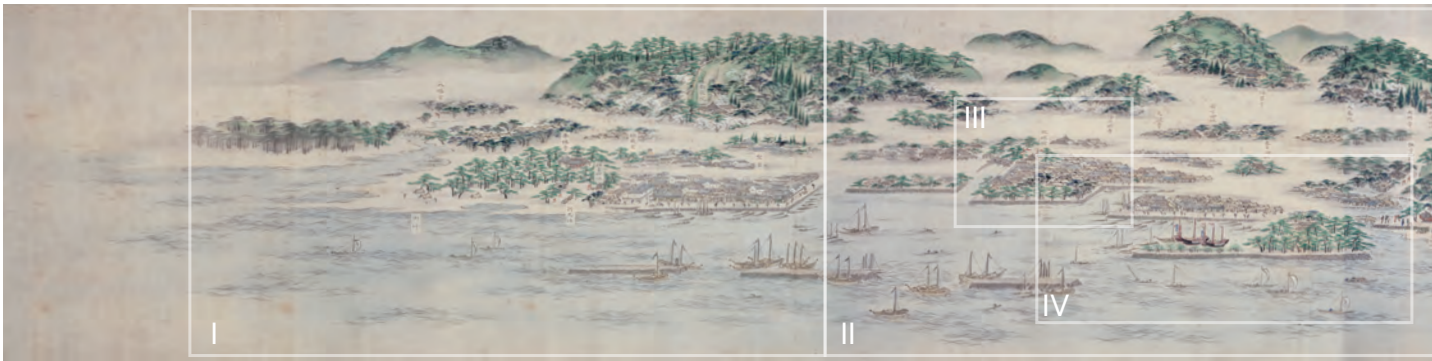


(第2景) 鹿児島其二より

1 全体図



(第1景) 鹿児島

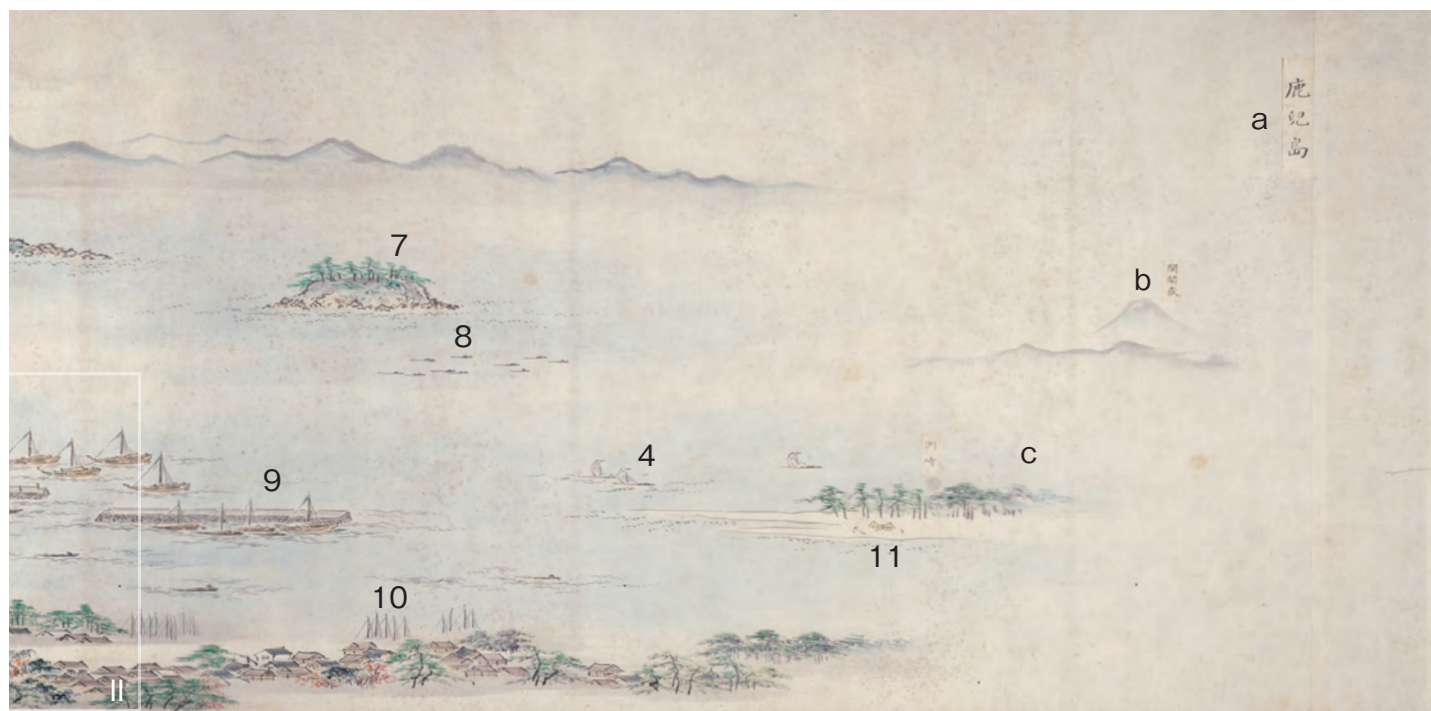


(第2景) 鹿児島其二

第1景は陸上より前之浜・鹿児島湾を眺望した図である。鹿児島湾の向こうには噴煙をあげる桜島が見え、さらにその先には大隅・肝属にまたがる高熊(隈)岳の姿が望める。また図の右手には開聞岳が、さらに南の手前には鹿児島武村の海浜洲崎が描かれていて、図の構図がおおよそ把握できるようになっている。桜島は古くから向島(ムカイジマ、ムコウジマ)・向之島(ムカイノシマ)などと史料に見え、「桜島」が公式名称とされるのは近世の中期以降のことといわれる。高熊岳(現、高隈岳)は領内で霧島山とならんで「神異多き處」として人々の敬畏を集めた(『三国名勝図会』巻4)。開聞岳は開聞宮が鎮座し、「筑紫富士」「薩摩富士」などと称された薩摩半島の名山。洲崎は鹿児島八景の一つで、塩田の

様子も描かれている。

第2景は前之浜海上より鹿児島城下を望む図である。鹿児島城下は北の吉野台地を流れる稲荷川、南西部の甲突川、その南を流れる田上川の氾濫原に形成されている。近世鹿児島城下の成立は15代当主島津貴久が1550(天文19)年、伊集院城から鹿児島に移り、稲荷川下流右岸の微高地に内城を築いたのに始まるといわれる(『島津国史』)。のち、1602(慶長7)年、薩摩藩初代藩主島津家久が城山丘陵の先端部に鹿児島城(鶴丸城)を築造、町割りを進めた。城の本丸と二の丸境の堀(新堀)から北側を上方面、南側を下方限と大別されたが、さらに後に開発をみた甲突川右岸の西田方限が加わって三方限となり、それぞれ上町・下町・西田町の町場も



形成されていった。特に武家屋敷の多い上・下の二方限は馬場・小路・通などに区切られた。城を中心に堀内・屋敷内に諸役所が置かれ、それに続いて上級士、下級士の屋敷が配され、その外側に町場が設けられるという構造は他藩の城下町のそれと同じである。江戸後期の成立とみられる『薩摩風土記』は「上六町やかたの北にあり、武家屋敷を中にして南を下町といふ、拾貳町あり、町より武家多し、此外山西を（に）西田町あり、西国道中の入口なり」と述べるが、その後町場は発展をつづけ、明治初年には上町は8町、下町は17町にいたるといふ。図の北東部に見える高千穂峰は通称霧島山。性空によって建立されたと伝えられる六所権現が鎮座し、島津氏の厚い信仰の対象であった。（上原兼善）

- 1 噴煙
- 2 太陽
- 3 松
- 4 帆船
- 5 神瀬（地名）
- 6 鳥居
- 7 沖小島
- 8 小舟（漁船？）
- 9 波止
- 10 帆柱
- 11 塩田

- a 鹿兒島
- b 開聞嶽
- c 洲崎
- d 高熊嶽
- e 櫻島
- f 其二 自海上所望
- g 高千穂峯

2 上方限

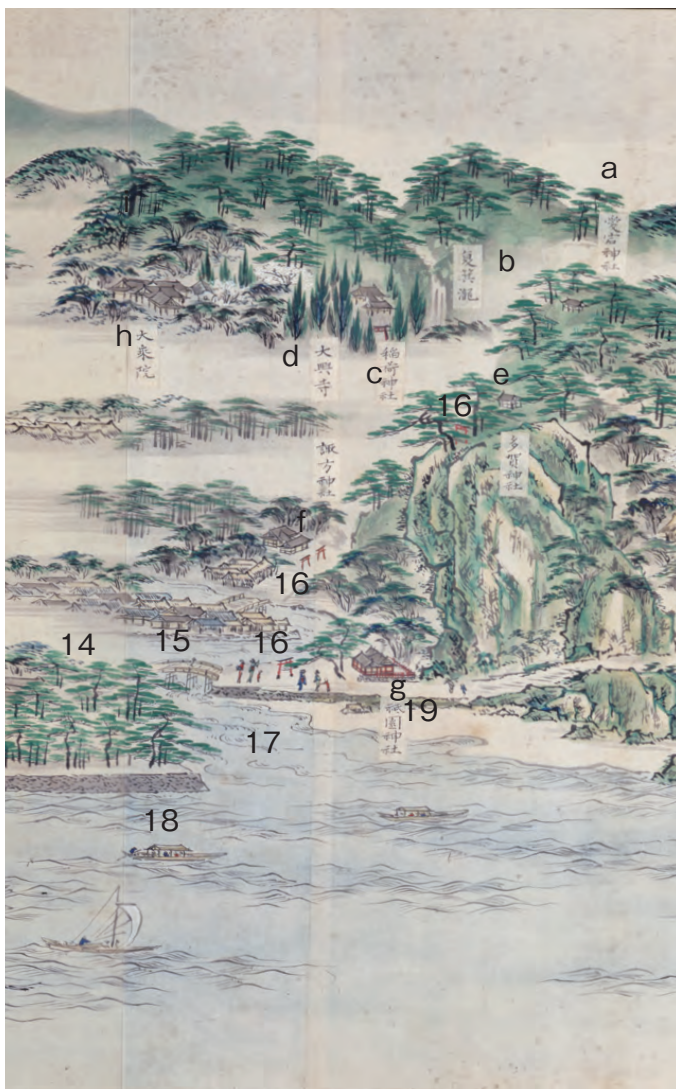


(第2景) 鹿兒島其二・部分II

ここに掲げたのは上方限の部分図である。図を見ると、上方限には神社仏閣が集中的に存在していたことがわかる。まず寺院についてみると、鹿兒島城の北に松峰山に抱かれるように浄光明寺(時宗)が描かれている。阿弥陀如来を本尊とする同寺は、島津氏初代当主忠久から5代までと、21代吉貴の菩提寺であった。浄光明寺の東側には臨済宗の大龍寺が見える。もともとこの場所には内城があったが、1602(慶長7)年、島津家久は鹿兒島城(鶴丸城)を築いて移り、内城のあとに当寺を創建した。島津貴久の法名「大中」と16代義久の号「龍伯」から一字ずつ取って大龍寺としたという(『三国名勝図会』巻1)。大龍寺の北には福昌寺(玉龍山)(曹洞宗)が存在する。薩隅日三州の僧録所・勅

願所、また島津氏歴代の菩提所として島津家の保護を受け、繁栄した。壮大な寺坊を見て、19世紀前半に数回にわたって鹿兒島を訪れた大坂商人高木善助も、その旅行記『薩陽往返記事』で「厳然として誠に城下第一の大寺院なり」と記している。福昌寺から東へやや離れたところには大乘院と大興寺がある。大乘院は島津氏の祈願寺の真言宗寺、そしてその東の大興寺はやはり真言宗寺院で、鹿兒島真言宗三本山の一つである。

次に神社についてみると、まず大龍寺の東に若宮神社(若宮八幡宮)が見える。近世、薩摩藩主が家督を相続した時は当社で報告祭が行われたという。若宮神社の東には春日神社(春日大明神社)が、同神社の北の、稲荷川が流れる山裾のあたりには稲荷



- 1 城山
- 2 鹿児島城（鶴丸城）
- 3 火の見櫓
- 4 武家屋敷
- 5 瓦葺き
- 6 名山堀
- 7 新橋
- 8 帆船（弁才船）
- 9 波止
- 10 小舟
- 11 玉龍山
- 12 琉球船
- 13 鍋屋岸岐
- 14 松林
- 15 永安橋
- 16 鳥居
- 17 稲荷川河口
- 18 屋形船
- 19 囲い（朱塗り）

神社（稲荷大明神社）が望める。そして、同神社の前を東へ下る稲荷川が、川下の多賀山の山裾で湾曲するあたりには諏訪神社（現、南方神社）が存在する。諏訪大明神・「お諏訪様」（スワサア）などとも呼ばれた神社である。いっぽう、多賀山には、山頂に愛宕神社、中腹に多賀神社、山裾に祇園神社（祇園社）がそれぞれ鎮座する。この祇園神社に加えて、若宮・春日・稲荷・諏訪神社を鹿児島五社と称した。

祇園神社前の道は磯に通じる道である。永安橋を渡ってきた子供連れの人たちは、桜の名所であった桜谷か、あるいは磯に花見に行くのであろう。

（上原兼善）

- a 愛宕神社
- b 夏箕瀧
- c 稲荷神社
- d 大興寺
- e 多賀神社
- f 諏訪神社
- g 祇園神社
- h 大乘院
- i 福昌寺
- j 春日神社
- k 若宮神社
- l 大龍寺
- m 浄光明寺
- n 琉球館

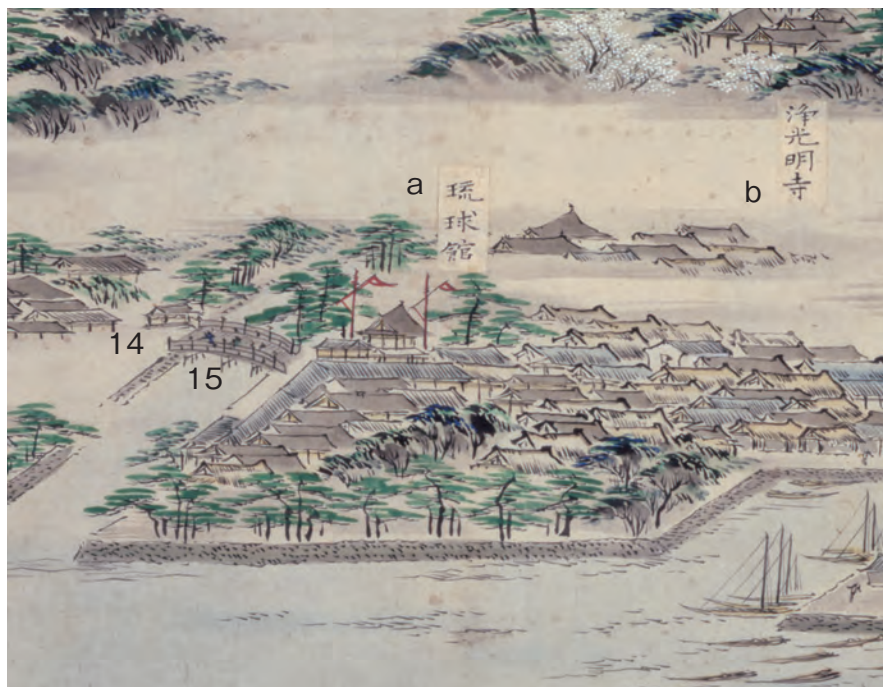
3 琉球館



(第1景) 鹿児島・部分Ⅱ

薩摩藩は1609（慶長14）年に琉球を征した後、琉球側の抵抗を恐れて王府の重臣たちを証人として鹿児島城下にとどめ置いた。琉球館はその証人屋敷が前身とみられ、初期の頃は「琉球仮屋」と呼ばれた。証人は上士の親方クラスの者が年頭の使者として鹿児島に上り、そのまま仮屋にとどまった。これを在番親方といい、藩よりは琉球仮屋守を置いてこれを監督せしめた。琉球仮屋は当初鹿児島城の南、「久保田諏訪之後辺」に存在していた（旧記雑録後編5-985号所収「薩州鹿児島衆中屋敷御検

地帳」[鹿児島県歴史資料センター黎明館1985]が、中期の頃には図に示される鹿児島城北の鹿児島港に近接したところに移転していたものとみられる[深瀬2002]。図では明らかにならないが、1859（安政6）年のものとされる『旧薩藩御城下絵図』（鹿児島県立図書館蔵、[塩満・友野2004]）によれば、道路を挟んで東の都城島津家と西の種子島家との間に位置している。1784（天明4）年には名も琉球館と改められ、仮屋守も琉球館聞役と改称するにおよんでいる。屋敷は石堀で囲まれ、都城島津家に



(第2景) 鹿児島其二・部分Ⅲ

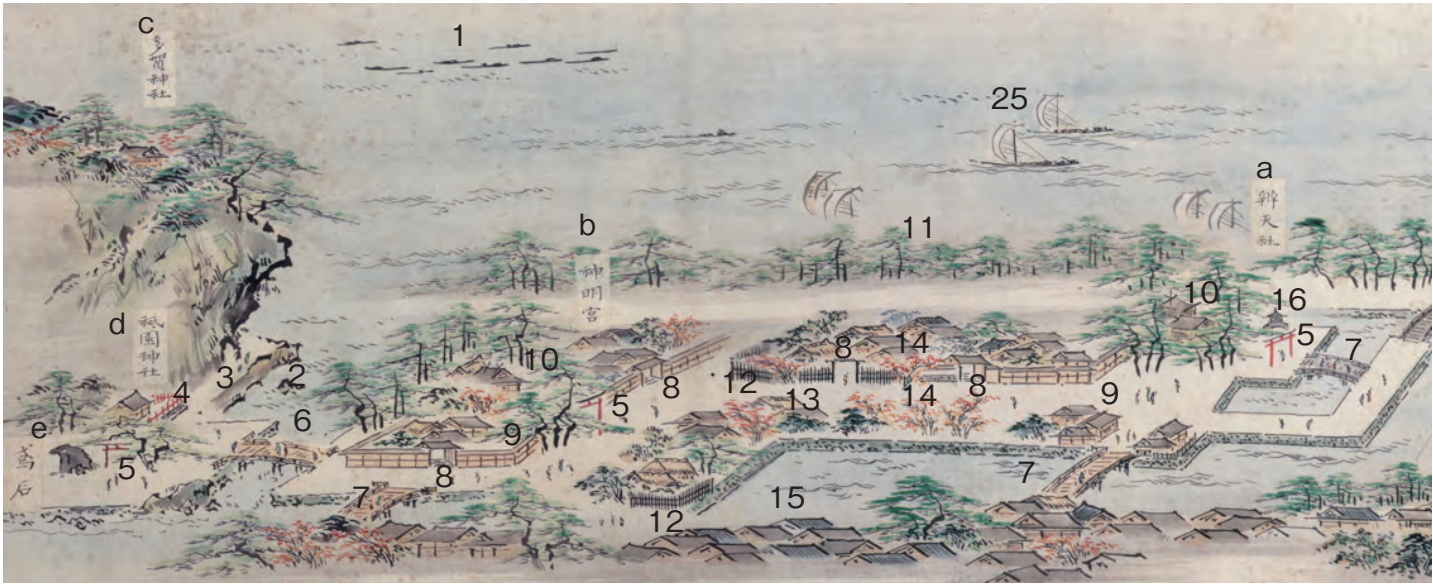
- | | |
|--------------|-------------|
| 1 琉球船 (楷船) | 10 帆船 (弁才船) |
| 2 三角旗 | 11 小舟 |
| 3 碇綱 | 12 帆柱 |
| 4 船の眼 | 13 松 |
| 5 御紋旗 (左巴御紋) | 14 番所 |
| 6 石灯籠 | 15 新橋 |
| 7 波止 | |
| 8 琉球船 (馬艦船) | a 琉球館 |
| 9 鍋屋岸岐 | b 浄光明寺 |

面した正門の両側には三角の旗が立てられていた。

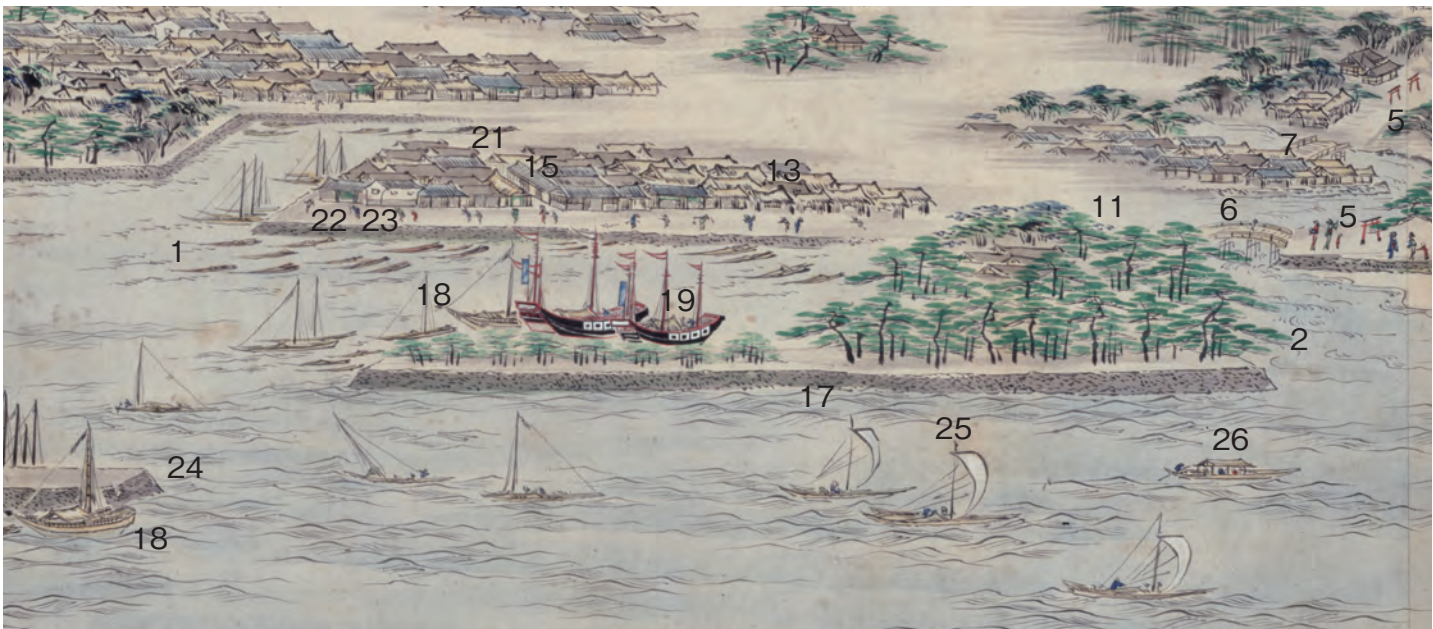
琉球と鹿児島の間でモノとヒトを運んだのが図に示されるジャンク型の楷船と呼ばれる船である。もともと進貢船・接貢船として3度ほど中国に渡航したのち、改修を経て王府の御用船としての役割を担ったものである。春夏二季にわたって派遣され、春に遣わされる船を春先楷船、秋派遣の船を夏立楷船といった。しかし、琉球側が琉球館との間でヒトとモノを運ぶために往来させたのは楷船だけではない。財政の困窮を理由に、ことあるごとに船舶の増

隻を薩摩藩に求め、近世の後期には多い時で楷船2艘のほか、ジャンク型の馬艦船(中規模のジャンク型船)2艘、それに進貢使を迎えるために活用された接貢船を運送船として1艘運行させている[小野武夫1932:351、豊見山2004]。これらの船は図のように3本マストに三角旗をとり付け、艦には巴の紋(左巴御紋)を染め抜いた御紋旗を備え付け、琉球船であることがわかるようにした。図ではそのほか大中小様々なタイプの和船が描き分けられている。(上原兼善)

4 新築地



(第1景) 鹿兒島・部分 I



(第2景) 鹿兒島其二・部分 IV

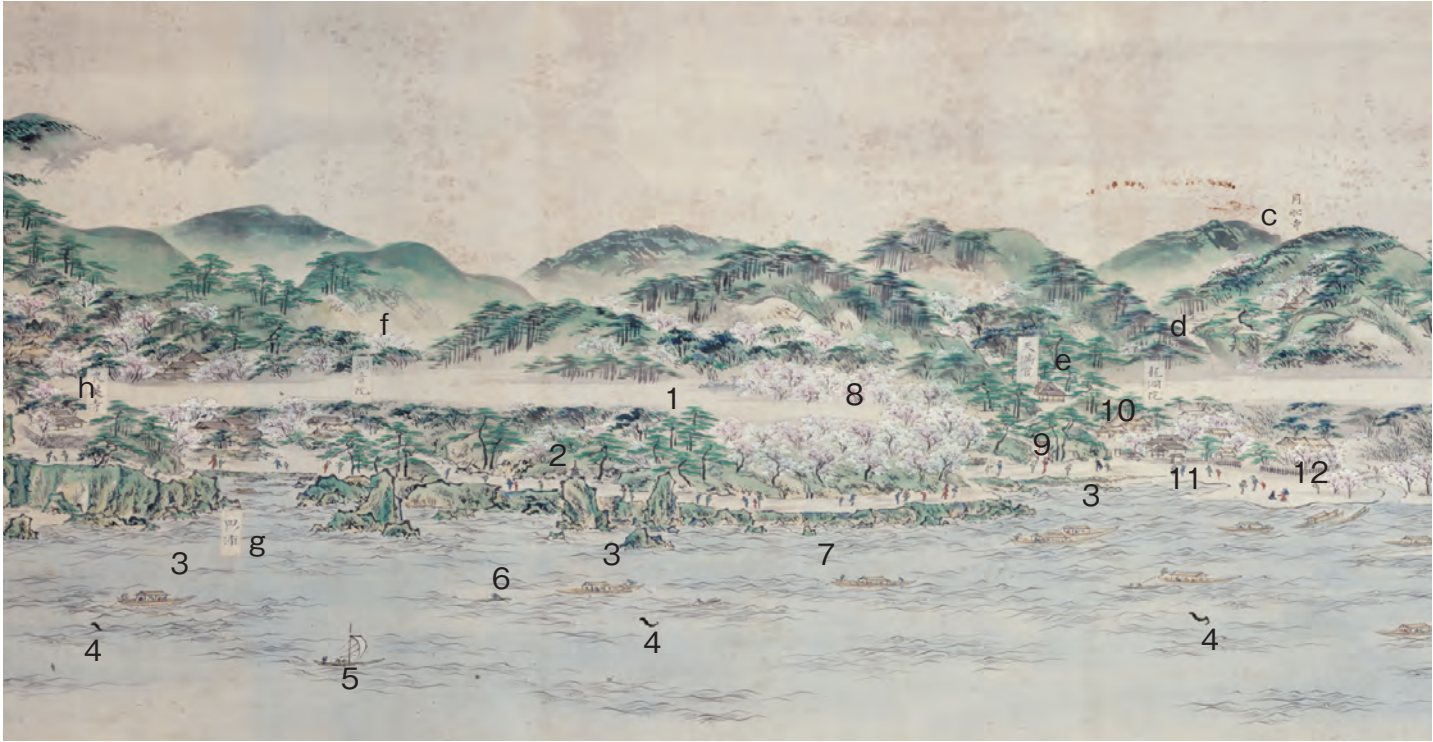


- | | |
|------------|--------------|
| 1 小舟 | 17 鍋屋岸岐 |
| 2 稻荷川河口 | 18 帆船 (弁才船) |
| 3 磯への道 | 19 琉球船 (馬艦船) |
| 4 囲い (朱塗り) | 20 帆柱 |
| 5 鳥居 | 21 新築地 (地名) |
| 6 永安橋 | 22 暖簾 |
| 7 橋 | 23 蔵 |
| 8 門 | 24 波止 |
| 9 板堀 | 25 帆船 |
| 10 千木 | 26 屋形船 |
| 11 松 | a 辨天社 |
| 12 囲い | b 神明宮 |
| 13 草葺き | c 多賀神社 |
| 14 櫓? | d 祇園神社 |
| 15 瓦葺き | e 鳶石 |
| 16 石灯籠 | |

琉球館を東に進むと、^{いなりがわ}稲荷川河口に築かれた上町新築地に出る。元禄期 (1688-1704 年) の相次ぐ火災を契機に鹿児島城下ならびに港が整備をみた。前之浜の干潟が埋め立てられ、堤が築造されていった。新築地もその一つである。海上から城下 (第 2 景) を臨む絵図を見ると、多くの町屋がたちならび、人々が賑やかに行き交っている。また水路では大小の船が行き来し、築地の前の鍋屋岸岐には大きな和船や琉球船も繫留されていて、物産の集散地として繁栄した様子うかがえる。19 世紀前半に鹿児島を訪れた大坂商人高木善助も「あるは劇場、或は茶店・魚賣の呼聲には、市町のほとりに喧く、神拜の拍手は綱引の船にひびく」と書き留めている (『薩陽往返記事』)。17 世紀初めに鹿児島城が居城と定められる以前は稲荷川河口が海の玄関口で、築地が築かれるまでは

琉球・道之島 (奄美諸島) を往来する大船は、潮時を見て、図に見える^{ぎおんしゃ}祇園社 (祇園神社) (現、^{やさかじんしゃ}八坂神社) の脇に引き入れられ、^{たがやま}多賀山の木に^{とも}鱸綱が繫がれたといわれる (『列朝制度 卷之六』[藩法研究会編 1969 : 352 号])。新築地は、『薩藩名勝志』(1806=文化 3 年) および「鹿児島御城下明細図」(1821=文政 4 年) などには「^{むこうつきじ}向築地」と記載されているが、ほかに祇園社の前に当たることから祇園前築地、また後に^{しんめいしゃ}神明社が勧請されたことから神明前築地などとも呼ばれた。神明宮とならんで見える^{べんてんしゃ}弁天社には琉球国波之上^{なみのうえごこくじ}護国寺の^{べざいてん}弁財天が祀られていた。1609 (慶長 14) 年の琉球出兵に際し、弁財天が海上に出現して、総大将^{かばやまひさたか}樺山久高に我を祀れば加護を与えると約束したため、久高は琉球平定の後、この海岸に祀ったという (『三国名勝図会』 卷 1)。 (上原兼善)

5 大磯



(第2景) 鹿児島其二・部分V



- | | |
|-------------|--------|
| 1 松 | 17 石垣 |
| 2 石灯笼 | 18 竹林 |
| 3 屋形船 | 19 緋毛氈 |
| 4 虫損 | 20 桜並木 |
| 5 帆船 | 21 杖 |
| 6 小舟 | 22 石段 |
| 7 櫓 | 23 錫門 |
| 8 桜谷 (地名) | a 集仙臺 |
| 9 鳥居 | b 大磯 |
| 10 草葺き | c 月船寺 |
| 11 門 | d 龍洞院 |
| 12 囲い | e 天満宮 |
| 13 囲い (朱塗り) | f 潮音院 |
| 14 千尋巖 | g 田ノ浦 |
| 15 社 | h 良英寺 |
| 16 大磯邸 | |



多賀山の山裾に切り開かれた道を行くと田ノ浦^{たのうら}であり、さらに北に向かうと大磯^{おおいそ}に行き当たる。中途の一段と桜が群生しているところが桜谷^{さくらだに} (8) で、大磯とならんで花見の名所であった。その手前のところに、石灯籠 (2) と数本の松が望める。それらは琉球船が鹿児島湾に入港する際の目印とされたと伝えられるものであろう (今日「琉球人松碑」としてその形跡をとどめる)。

大磯には島津氏の別邸磯御茶屋があった。万治年間 (1658-1661 年) に薩摩藩主島津光久^{みつひさ}によって築かれた茶屋の庭園仙巖園^{せんがんえん}は、その後 18 世紀に入って島津吉貴によって曲水の庭や孟宗竹林などの整備をみ、さらに 1848 (嘉永元) 年には 27 代当主島津斉興が海岸を埋め立て、規模を拡張した。後背に奇岩奇石がつらなり、中国^{りゅうこさん} 竜虎山の仙岩に似ているところから仙巖園と名付けられたという。前面には鹿児島湾と桜島が一望でき、桜の名所でもあったの

で、春になると花見の人々で賑わった。図では花見の宴のために緋毛氈^{ひもうせん}を敷く姿が見られるが、海中に多く浮かぶ屋形船を見ると、船遊びをする人も多かった様子がうかがえる。

道沿いのあい連なる山々には天満宮・龍洞院^{てんまんぐう りゅうとういん} (天台宗寺)・月船寺^{げっせんじ} (黄檗宗寺) が望め、また仙巖園裏山の頂には、文化 11 (1814) 年、斉興が、隠居の重豪 (25 代当主) の意を受けて展望と夏場の涼をえるために設けたといわれる「集仙台」^{しゅうせんたい} (上の御茶屋) が見える。その下あたりにすでに重豪によって 1799 (寛政 11) 年、山中をながれる滝を眺めるために「観水舎」^{かんすいしゃ} (下の御茶屋) が築かれていたといわれるが、図中には見えない。「集仙台」からやや下った谷間のところに見える帯状の岩 (14) は、斉興が「集仙台」築造とともに「千尋巖」^{せんじんがん} の文字を刻ませた巨石であろう。 (上原兼善)

6 下方限



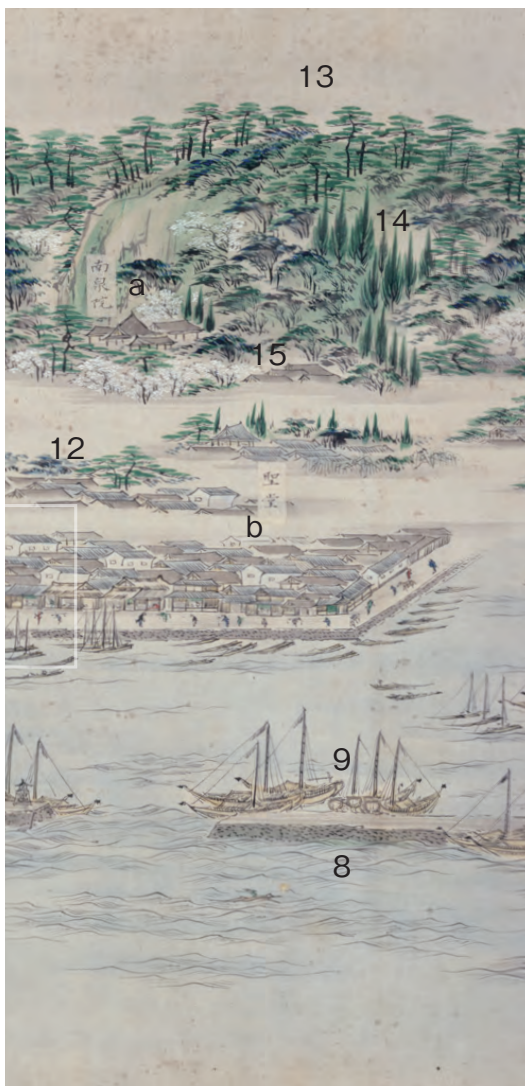
(第2景) 鹿児島其二・部分 I



部分 1



部分 2



- | | |
|---------------|----------|
| 1 鳥居 | 22 荷を運ぶ馬 |
| 2 橋 | 23 店 |
| 3 清滝川河口 | 24 暖簾 |
| 4 小舟 | 25 小舟 |
| 5 塩屋村? 〈地名〉 | 26 棒 |
| 6 松 | 27 小物 |
| 7 帆船 | 28 洲崎塩田 |
| 8 波止 | 29 塩焼き小屋 |
| 9 帆船 (弁才船) | 30 杓 |
| 10 火の見櫓 | 31 浦人 |
| 11 下町会所? | 32 砂を掻く |
| 12 下町 〈地名〉 | |
| 13 城山 | a 南泉院 |
| 14 杉 | b 聖堂 |
| 15 鹿児島城 (鶴丸城) | c 地藏堂 |
| 16 草葺き | d 南林寺 |
| 17 葺 | e 住吉神社 |
| 18 天秤で荷を担ぐ | f 辨天社 |
| 19 瓦葺き | g 八幡宮 |
| 20 板葺き? | h 洲崎 |
| 21 貨物 | |

上方限ほどではないが、下方限にも多くの神社・仏閣が存在していたことがわかる。鹿児島城の南隣には南泉院があり（現在は照國神社が鎮座する）、それより東に下ったところには地藏堂が見える。そして大門口と呼ばれた海岸よりの所には南林寺・住吉神社・弁天社が望める。南林寺は曹洞宗寺で、福昌寺末。大門前の通りは市や興行が立つほどにぎわった。

鹿児島城の南東に聖堂が見え、その東には下町がひろがる。火の見櫓のある辺りが大黒町で、櫓に

隣接してあるのが下町会所かと思われる。下町は城下三町の中心で、多くの人々の行き交う姿が見える。この後、天保期（1830-44年）に甲突川を今の清滝川から川筋を変え、城の正面から南の海岸口（大門口）まで埋め立てたことで下町はさらに発展をみせるといわれるが、図はそれ以前の様子を伝えるものである。清滝川河口の洲崎では塩田が営まれている。川をやや遡ったところに橋が架かっているのが見えるが、丸瓦羅橋か。それよりさらに川上に見える八幡宮 (g) は荒田八幡宮であろう。（上原兼善）

7 西田方限 (川外)

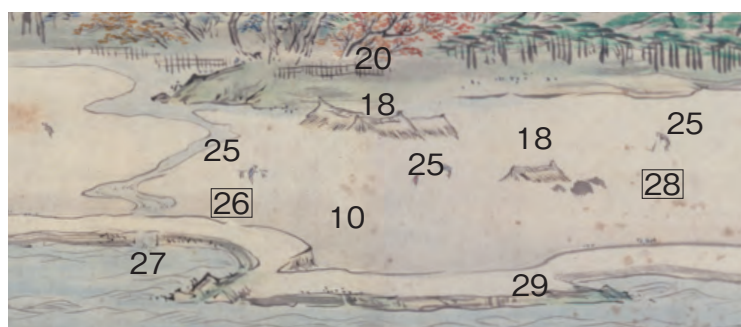
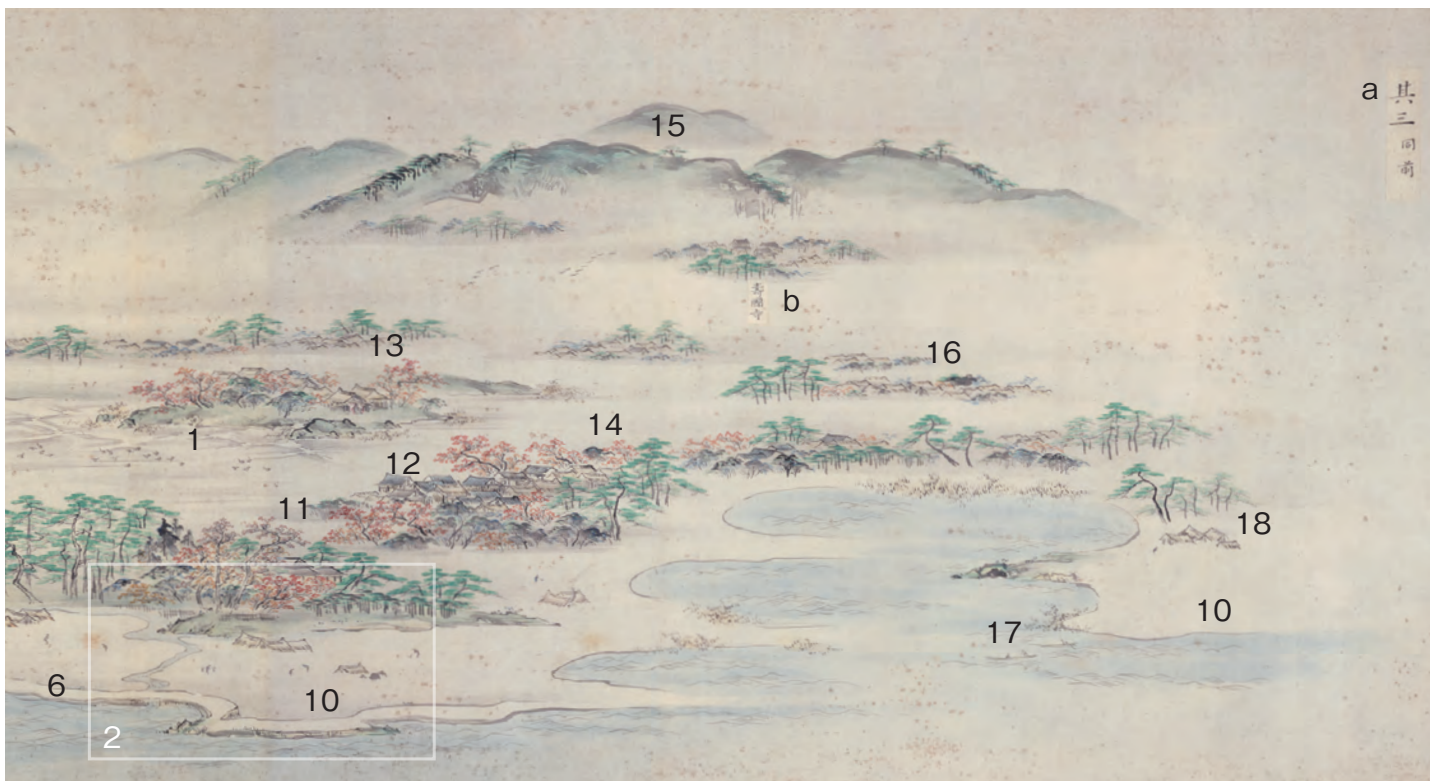


(第3景) 鹿児島其三



部分 1

- | | |
|-------------|----------|
| 1 鴨の群れ | 17 小舟 |
| 2 松林 | 18 塩焼き小屋 |
| 3 摩利支天ノ岡 | 19 草葺き |
| 4 郡元村〈地名〉 | 20 柵 |
| 5 橋 | 21 店？ |
| 6 道 | 22 谷山筋 |
| 7 田 | 23 馬を曳く |
| 8 鶴 | 24 旗 |
| 9 新川 | 25 浦人 |
| 10 塩田 | 26 潮を汲む |
| 11 中村〈地名〉 | 27 水路 |
| 12 瓦葺き | 28 砂を掻く |
| 13 田上村？〈地名〉 | 29 道 |
| 14 荒田村〈地名〉 | |
| 15 武岡 | a 其三 同前 |
| 16 武村〈地名〉 | b 壽國寺 |



部分2

甲突川の外側の図である。この図では見えないが、甲突川の対岸には武家屋敷の西田および参勤街道筋(出水筋)に沿って西田町がある。武家屋敷の西田方限は川外と呼ばれた。甲突川は近世の始めまでは現在の清滝川が下流であったが、天保年間(1830-44年)に大改修が行われ、ほぼ現在の流路に変じた。また図では田上村を流れる田上川も明示されていないため、川外の村・町・道路・橋梁を特定するのは容易でない。図右上に武岡の台地、それに寿国寺が見えていることからすると、その下に描かれている集落は武村であろう。寿国寺は黄檗宗寺で、唐様の構えで知られていた。武村の位置からすれば、その南の集落が田上村である。田上村は御鷹場(藩主が鷹狩りをする場所)であったことからして[藩法

研究会編1969:618号]、図中の鶴・鴨などが描かれているあたりかと思われる。同村の東の集落が荒田村、さらにその南隣が中村である。中村の海寄りの松林のなかには御茶屋(藩主の休息所)があった。海岸には塩田も見える。

中村の南は郡元村である。同村の中でも川にかかる橋を越したあたりは店屋らしきものがあり、また馬引きの姿も見えて交通の要所であったことをうかがわせる。川は1806(文化3)年の田上川の改修によって開鑿された新川かと思われるが、橋の名は確定できない。下荒田から延びてくる谷山筋(街道)は郡元村を横断し、この橋を渡り、宇宿村へと向かう。(上原兼善)